



ミドルリーダーの挑戦
—前へ! 前へ!!

生徒一人ひとりの内面に寄り添い続け 個々の良さを伸ばしていきたい

大分県豊後高田市立高田中学校 **堀之内健治** 33歳



Middle
Leader

ほりのうち・けんじ◎教職歴10年。2年間講師を務めた後、大分市立王子中学校、宇佐市立宇佐中学校、宇佐市立西部中学校に勤務し、2013年度、同校に赴任。担当教科は数学。1学年担任、1学年生徒会担当、バスケットボール部顧問。

これまで私が歩いてきた道のり

「押し付け」の指導が
生徒から拒絶され
苦しんだ新任時代

私の父は中学校の教師で、バレーボールの指導で全国的に名が知られている存在でした。同じように中学校教師の道を選んだ私は、当時の生徒が持っていた「緩さ」に対して、授業でも部活動でも「ビシッ」と指導しようと思いました。

ところが、私は生徒のためにと思って指導をしているのに、生徒は思うように動いてくれません。それほどばかりか、新年度の担任発表で私の名前が呼ばれた瞬間に「えーっ」と

いう声が一斉に上がった。顧問を務めるバスケットボール部では遠征をボイコットされたりと、何度も苦しい思いをさせられました。いったい

どう指導すればよいのか……。悩んでいた私は、ある先輩から「厳しいのはいいんやけど、生徒に受け入れられていないぞ」と言われたのです。

今思うと、私は自分の理想を生徒に押し付けようとしていたのではありません。よく言えば理想に燃えていたのですが、実際は生徒の内面に思いが及ばず、自分勝手に描いた生徒像に無理やり近づけようとしていただけなのだと思えます。

生徒との接し方を模索するうち

に、教科指導も生徒指導も部活動の指導も、基本は同じであることに気がきました。担当教科の数学で言えば、最初に公式や解法を教えなければ問題が解けるようになりませんが、教え込もうとして問題をやらせ過ぎると、生徒が数学を嫌いになっってしまう恐れがあります。部活動の指導でも同じで、基本的な技術の習得は欠かせませんが、その練習だけでは競技の面白さが伝わりません。かといって、テストや試合は待ってられませんから、ゴールをイメージして段階を踏まえて指導する必要があります。

当初は少しでも早く完成形に近づけようとするあまり、無理に基本を教え込もうとして失敗し、生徒の心が離れていってしまいました。数学やバスケットの「楽しさを伝える」という視点が抜け落ちていたのです。

そうした失敗を繰り返すうちに、徐々に生徒の反応が目がいくようになります。そして、生徒が、何を思い、考え、感じ、どこにつまずいているのかということを考えながら、「今はまだ、これが出来なくて大丈夫」と、心に余裕を持つて指導できるようになりました。

心に寄り添えれば 話を聞くだけでも 生徒を変える力を持つ

自分の思いではなく、生徒の思いを大切にした指導が少し出来るようになったのは、20代最後の頃です。

自分が言いたいことだけを言い、授業を乱す生徒がいたのですが、その生徒を3年生の時に受け持つことになりました。私は、生徒は大人から認められていないと感じているから、そのようなことをするのだと考え、生徒の話を何でもことん聞くことに決めました。

今、私が踏み出そうとしている新たな一歩

一人ひとりの内面を見つめ 集団の中で輝いて成長する チャンスをつくりたい

学校でしか出来ない指導として大切にしているのは、集団生活を送る中で、思いやりの心などを育て人間性を高めることです。

そのために力を入れているのが、学級づくりです。生徒たちは、体育

初めのうちは、授業、朝の会、給食、掃除、学活などでも、まだ自分勝手な発言がありました。それでも根気強く、その生徒の発言を聞き続けると、数か月が経った頃、明らかに言動が変わってきました。次第に落ち着いて授業に臨むようになっただけでなく、リーダー的資質が開花し、学級行事などを引っ張る存在になったのです。進路相談でも、生徒は心を開いて本音を話してくれました。

生徒の心に寄り添うことが出来れば、生徒は伸びる、変わるということを、私はこの経験から学びました。

大会や合唱大会などさまざまな行事を通して、友だちと力を合わせて1つの目標に向かっていくという経験を積む中で、満足感や達成感を得ます。その経験は人間的な成長をもたらすと共に、生活面や学習面の向上につながっていくと思います。

一体感のある学級をつくるためには、担任が「こんな集団をつくりたい」という明確な目標の下、生徒と

同じ目線に立って活動する熱意が必要だと思っています。しかし、あくまでも生徒が主役で、生徒自身に決めさせることを大切にしています。

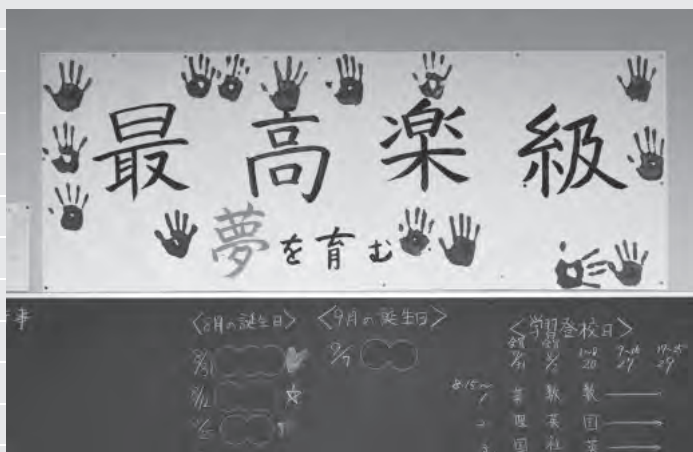
生徒を集団の中で育てるためには、教師が生徒一人ひとりの良いところを積極的に探し、学級の中で輝く場面をつくることも大切です。生徒の個性や気持ちによって目指すゴールは異なりますから、常に一人

ひとりの内面を見つめて、「この生徒には、どのように成長してほしいか」という視点を持つようにしています。しかし、そのような指導をするための知識や経験は、まだまだ私には十分ではありません。先輩の指導を参考にさせていただきながら、これからも生徒一人ひとりのつながりを大切にする中で学んでいきたいと思っています。

学級づくり

堀之内先生の取り組み

◎学級に一体感を生み出すためには、クラスメートで目標を共有することが不可欠だと思います。生徒が話し合っ学級目標を決め、みんなで協力してポスターを作ってもらいました。そして、学校行事などの節目節目で生徒に語り掛け、学級目標を確認し、方向性を共有して取り組めるように指導しています。



学級目標のポスターは、一人ひとりに「自分のこと」として意識してもらうために生徒の手形を入れ、黒板の上に掲示している